



営農NEWS



トマト葉かび病や灰色かび病の発生に注意しましょう

越冬トマト栽培では、厳寒期に入り、施設内が多湿環境になりやすい状況となっています。このため、葉かび病や近年では発病時期が前進化している灰色かび病の発生に十分注意が必要です。

病害虫発生予報2月号（病害虫防除所）によると、1月下旬現在、**トマト葉かび病の発病度（本年2.0、平年0.3）は平年よりやや高く、発生地点率（本年44%、平年2%）は平年より高い状況で、2月の発生もやや多い状況で推移すると予測しています。また、灰色かび病は平年並～やや多い発生で、2月もこのまま推移すると予測しています。**

葉かび病や灰色かび病は、多湿の環境が続けば多発生し、一度多発生してしまうとなかなか薬剤による防除効果が上がりにくい病害です。

このため、**予防に努めるとともに、施設内をよく観察し、発病の早期発見と発病初期の防除を徹底**してください。

なお、これらの病害は**有効な薬剤に対して耐性菌が出現しやすい**ため、**薬剤散布後は常に防除効果を確認しながら分類の異なる薬剤で防除を行う**必要があります。

下記の防除のポイントを参考にして発病抑制の栽培環境を保持し、常に的確な防除対策を実施してください。

<防除のポイント>

- 1) トマトの健全な生育を促すため、適宜な整枝、剪定による採光や通風の確保、適度な灌水や追肥など、適切な肥培管理に努めてください。
- 2) 灰色かび病は、花卉の落ちが悪いと、果実の発生を助長しますので、出来るだけ枯花を取り除きます。
- 3) 両病害とも施設内の多湿条件が続くと、急速に発生します。昼近くになっても、作物に水滴が残るような場合には、暖房や送風、換気等により施設内の湿度をできるだけ低くするよう努めてください。
- 4) 被害葉や果実などを見つけたら直ちに摘除し、施設外へ持ち出して腐熟化させるなど適切に処分してください。施設内や近くに、そのまま放置することは（伝染源となる恐れがありますので）厳禁です。
- 5) 薬剤防除は予防または発病初期から行い、晴れた日の夕方までには薬液が乾くような時間帯に散布します。
- 6) 湿度の高い施設では、防除薬剤に「くん煙剤」なども活用しましょう。
- 7) 薬剤耐性菌の出現を抑制するため、**同一分類（コード）の連続使用は避けて、ローテーション散布**してください。

表1 トマトまたはミニトマト葉かび病の主な防除薬剤 (令和4年1月31日現在)

対象作物 薬剤名	ト マ ト		ミ ニ ト マ ト		分類
	希釈倍率	使用時期/使用回数	希釈倍率	使用時期/使用回数	
アフエットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	7
ベルコートフロアブル	2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	M7
トリフミン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで/5回以内	3,000~5,000倍	収穫前日まで/5回以内	3
ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで/4回以内	1,000倍	収穫前日まで/2回以内	M5
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000~3,000倍	収穫前日まで/3回以内	2,000~3,000倍	収穫前日まで/3回以内	11
ゲッター水和剤	1,000~1,500倍	収穫前日まで/5回以内	1,500倍	収穫前日まで/3回以内	1と10

注) 表1および2の分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 トマトまたはミニトマト灰色かび病の主な防除薬剤 (令和4年1月31日現在)

対象作物 薬剤名	ト マ ト		ミ ニ ト マ ト		分類
	希釈倍率	使用時期/使用回数	希釈倍率	使用時期/使用回数	
ゲッター水和剤	1,000~1,500倍	収穫前日まで/5回以内	1,500倍	収穫前日まで/3回以内	1と10
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000~3,000倍	収穫前日まで/3回以内	2,000~3,000倍	収穫前日まで/3回以内	11
フルピカフロアブル	2,000~3,000倍	収穫前日まで/4回以内	2,000~3,000倍	収穫前日まで/4回以内	9
セイビアーフロアブル20	1,000~1,500倍	収穫前日まで/3回以内	1,000~1,500倍	収穫前日まで/3回以内	12
アフエットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	7
ベルコートフロアブル	2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	M7
ロブラールくん煙剤	くん煙室容積300~400m ³ 当たり100g	収穫前日まで/3回以内	くん煙室容積300~400m ³ 当たり100g	収穫前日まで/3回以内	2

※ 上記の散布剤以外に、灰色かび病には暖房機のダクト取り付け口付近から製剤をダクト内に直接投入し、暖房機を数時間以上稼働させることで発病を予防する微生物農薬（ボトキラー水和剤：発病前～発病初期の使用：分類BM2）があります。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※営農NEWSはJA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040